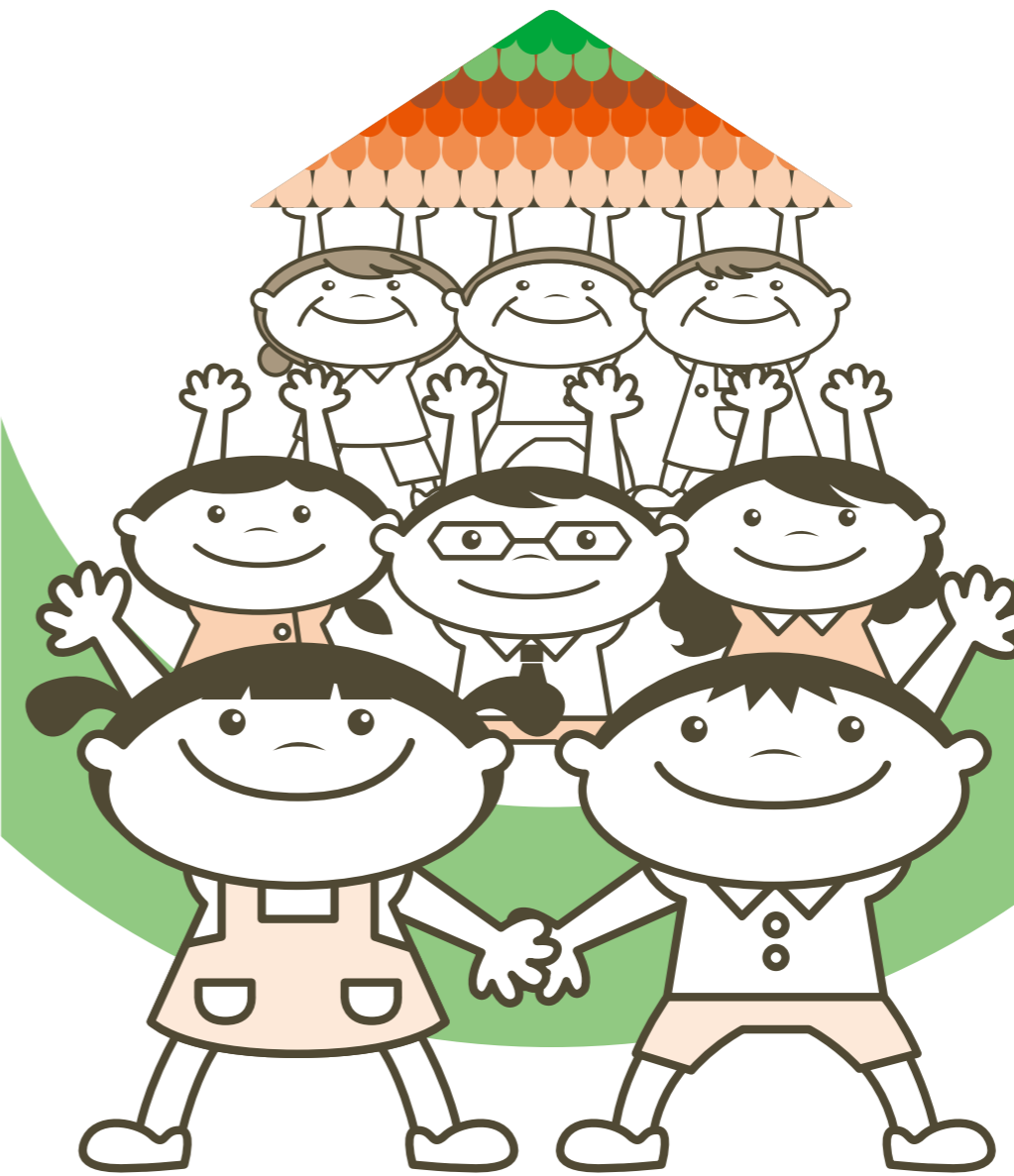


認知症になっても高知家で

おもてなしのこころで
支えあう医療と介護



2014年
10月22日水

午後 1:00~4:30

高知県民文化ホール
(グリーン)

入場無料

プログラム

- PM 1:00 開会あいさつ 高知県精神保健福祉協会会長 明神 和弘
来賓あいさつ 高知県知事 尾崎 正直
高知市長 岡崎 誠也
- PM 1:20 表彰式
- PM 1:30 休憩
- PM 1:35 アトラクション 藤戸病院デイケア
コーラスグループ「HAZAMACER'S (ハザマッカーズ)」
- PM 1:45 休憩
- PM 1:50 講演「アルツハイマー型認知症の人の地域生活をサポートするには」
講師 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学講師 成本 迅
- PM 2:40 講演「非アルツハイマー型認知症について
～レビー小体型認知症とピック病～」
講師 高知大学医学部精神科講師 上村 直人
座長 (医)一条会渡川病院 院長 吉本啓一郎
- PM 3:25 休憩
- PM 3:35 シンポジウム「認知症になっても安心して医療と介護を受けられる地域とは」
シンポジスト
「香美市における認知症連携について」
香美市役所健康介護支援課地域包括支援班長 時久 朝子
(特医) 同仁会同仁病院医療相談室主任 横川 貴恵
助言者 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学講師 成本 迅
高知大学医学部精神科講師 上村 直人
座長 (医)精華園海辺の杜ホスピタル 副院長 岡田 和史
総合司会 高知県基幹型認知症疾患医療センター精神保健福祉士 中村 京子
- PM 4:25 閉会あいさつ 高知県精神保健福祉協会 副会長 森信 繁

[主催] 高知県精神保健福祉協会

[事務局] 高知県精神保健福祉協会 高知市丸ノ内1-2-20 高知県地域福祉部障害保健福祉課内 TEL 088 (823) 9669

[後援]

高知県・高知県教育委員会・高知市・高知市教育委員会・高知市長会・高知県町村会・(一社)高知県医師会・(社福)高知県社会福祉協議会・(公社)高知県理学療法士協会・(一社)高知県作業療法士会・高知臨床心理協会・高知臨床心理士会・高知県精神保健福祉士協会・高知県医療ソーシャルワーカー協会・高知県精神障害者家族会連合会・(公社)高知県看護協会・(一社)日本精神科看護技術協会 高知県支部・高知県精神科病院協会・高知県精神神経科診療所協会・(独)労働者健康福祉機構高知産業保健総合支援センター・高知県民生委員児童委員協議会連合会・特定非営利活動法人高知いのちの電話協会・(公社)認知症の人と家族の会高知県支部・高知県介護老人保健施設協議会・高知県宅老所・グループホーム連絡会・NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・高知ケーブルテレビ・エフエム高知

「認知症になっても高知家で」

～おもてなしのところで支えあう医療と介護～

大会実行委員長 吉本 啓一郎

第54回高知県精神保健福祉大会にご参加いただきました皆様に、本大会の実行委員長としてご挨拶を申し上げます。

今年度の大会は認知症をテーマに開催いたします。近年この病気に関する診断や治療、介護の技術に大きな進歩があったとはいえ、まだまだご本人、ご家族にとって大変な病気です。当事者の方々をサポートする、医療や介護、行政の方々の連携がなおいっそう大切だと考えられ、高知県においてもたくさんの取り組みがスタートしております。

私たちは、生活の中でいろいろな病気の予防に気を配り、しばしば検査を行って早期発見につとめ、時に苦しい治療を乗り越えてでも、健康の維持に努めておりますが、認知症はその人の人生の後半に思いがけなくやってきます。認知症がまだまだ根治できる病気ではないとすれば、出来るだけ早期から正確な診断がなされ、一人一人の方にあった適切な治療や介護が受けられ、そしてその人らしい生活を長く失わずにいられることが、私たちの強い願いではないでしょうか。

本日の講演は、京都府立医科大学の成本迅先生と高知大学の上村直人先生にお願いいたしました。認知症に関する最先端の研究をされながら、実際の診療でも地域でご活躍されている先生方です。後半は、香美市市役所の時久さんと同仁病院の横川さんに、認知症を持つ方々への、以前からの真摯な取り組みについてお話していただき、認知症になっても安心して暮らせる地域とは、というテーマでお話し合いをもっていただきます。

本日の大会が、「高知家」の皆様にとりまして、認知症と向かい合っていく力がわくきっかけになりましたら、実行委員会の代表としては何より嬉しいかぎりです。

本日まで参加をいただきました皆様方、本当にありがとうございました。

第54回高知県精神保健福祉大会開催にあたって

高知県精神保健福祉協会会長 明神 和弘

第54回高知県精神保健福祉大会は「認知症」をテーマとして開催いたします。現在の日本は、65歳以上の人口が3000万人を越えようとしており超高齢化社会となっておりますが、その4分の1が認知症になると言われております。430万人の方々が認知症に苦しんでおられ、更に400万人の人達が近い将来、認知症になることが予測されております。今や認知症は特別な疾患ではなく、ある年齢に達すれば誰もがかかり得るごく普通の疾患と考えるべきでしょう。

行政もこのことを危惧しいろいろ対策を行おうとしておりますが、私達もこの疾患に関しての診断や治療法、更に介護の問題なども含めて正しい知識を身につけておく必要があるように思います。

今大会の第一部では京都府立大学の成本迅先生、高知大学の上村直人先生にご講演いただきます。お二人とも認知症に関しての第一人者であられ、研究面・臨床面でも優れた業績や経験をお持ちですので興味深いお話を聞けるのではないかと考えております。

第二部では、「認知症になっても安心して医療と介護を受けられる地域とは」をテーマに香美市役所の時久さんと同仁病院の横川さんに「香美市における認知症連携について」の演題でお話を聞かせていただきます。

大会が認知症に関しての理解を深めるとともに、認知症の患者さんや介護をするご家族、またその関係者の方々に少しでも希望を与えることができればと願っております。

講演タイトル

「アルツハイマー型認知症の人の地域生活をサポートするには」



講師

京都府立医科大学大学院
医学研究科精神機能病態学

なるもと じん

講師 成本 迅

●略歴

平成 7年 3月 京都府立医科大学医学部卒業
平成 7年 4月 京都府立医科大学附属病院研修医、精神神経科勤務
平成 9年 4月 京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程入学
平成 13年 3月 京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程修了
平成 13年 4月 医療法人 精華園勤務(医員)
平成 14年 4月 京都府精神保健福祉総合センター
平成 16年 4月 五条山病院 医員
平成 17年 4月 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学助手
平成 20年 4月 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学講師

現在に至る

資格等：医学博士、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本精神神経学会指導医、日本老年精神医学会専門医、日本老年精神医学会指導医

所属学会

日本精神神経学会、日本生物学的精神医学会(評議員)、日本老年精神医学会(評議員)、国際老年精神医学会、日本老年行動科学会(理事)、日本神経精神医学会(評議員)

主な研究領域

認知症患者の認知機能、及び精神症状に関する臨床研究、脳画像を用いた精神疾患の臨床研究

著書

成本 迅, 福居顯二監訳. 介護施設の精神科ハンドブック (Conn K, Herrmann N, Kaye A, Rewilak D, Schogt B. Practical Psychiatry in the Long-Term Care Home. The Handbook for Staff. Third Revised and Expanded Edition. Hogrefe & Huber Publishers). 東京: 新興医学出版社, 2011.

成本 迅, 飯干紀代子. 「説明に関わる教育や指導」. 認知症の人と家族・介護者を支える説明. 繁田雅弘編. 大阪: 医薬ジャーナル社, 120-125, 2013

アルツハイマー型認知症では、近時記憶の障害を中心として、いくつかの認知機能障害がみられますが、一方で保たれている能力も多くあります。低下した能力をどのように補っていくとよいか、逆に保たれている能力をどのように活用してもらえばよいかについて発症からお亡くなりになるまでの経過に沿ってお話したいと思います。また、物盗られ妄想を中心として生活の妨げとなる精神症状も出現することがあります。医療的な対応の実際と地域生活を支える上での注意点についてお伝えしたいと思います。



講演タイトル

「非アルツハイマー型認知症について～レビー小体型認知症とピック病～」



講師

高知大学医学部精神科

かみむら なおと

講師 上村 直人

●略歴

平成 9年 高知医科大学大学院卒業
平成 9年 同仁会同仁病院精神科勤務
平成 11年 高知医科大学医学部附属病院勤務

現在に至る

精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本老年精神医学会専門医

執筆図書

上村直人、藤戸良子、大石りさ、諸隈陽子、認知症と自動車運転—医師会会員に対する高齢者および認知症患者の運転免許制度に関する意識調査を中心に—高知県医師会医学雑誌第19巻1号P72-81

超高齢社会を迎えた高知県では認知症の問題は、県民のこころの健康にとって非常に重要です。認知症の人が増えていくのはもちろんのこと、認知症の介護にかかわる家族も含めると決して稀な病気ではありません。そこで、私は今回、認知症の中でも最近注目されているレビー小体型認知症と、初老期認知症の中でも稀ではないピック病に関して講演では述べてみたいと思います。またこころの病は、「明日は我が身」と言われるように誰でも起こりえるものです。その際の心構えや支援の仕方についても触れてみたいと思います。

